



かわいっ子

河合小だより

令和2年10月

【学校教育目標】「他者と共創し、主体的に学ぶ児童生徒の育成」

文責：学校長

Society5.0 社会に生きるための準備

吉岡 優

2018年の国際学習到達度調査（PISA）、学力テストとともに行われたアンケート調査では、日本の高校1年生の約8割が、授業でタブレットなどのデジタル機器を「利用しない」と回答し、この設問に答えた経済協力開発機構（OECD）加盟の31カ国中、利用率が最も低かったことが分かりました。逆に、ゲームやネット上のSNSなどを利用する割合は最も高いとの状況が明らかになりました。

アンケート分析の結果、教室で行われる1週間の授業でデジタル機器を「利用しない」と回答した割合は、国語83.0%（OECD平均48.2%）、数学89.0%（同54.4%）、理科75.9%（同43.9%）で、いずれも際立って高いことがわかりました。

つまり、学校外でも勉強目的での利用は低調で、毎日あるいはほぼ毎日「コンピューターを使って宿題をする」割合は3.0%（同22.2%）、「学校の勉強のためにインターネット上のサイトを見る（調べ学習）」も6.0%（同23.0%）にとどまり、いずれも最下位でした。一方、毎日あるいはほぼ毎日「ネット上でチャット（SNS）をする」は87.4%（同67.3%）、「一人用ゲームで遊ぶ（同）」は47.7%（同26.7%）と、遊び（ゲームや動画視聴）などではどの国より盛んに使われていました。

あらゆる機会をとおして「ネットは1時間以内」「夜9時以降は使わない」など呼びかけてはいますがネット依存、ネットトラブルなど子どもたちを取り巻くネット環境は悪化の一途です。これは子どもたちが「正しい使い方」を学んでいないことが原因です。



コロナ禍の中、来るべき Society5.0 社会にむけ、5月文科省が「GIGA スクール構想の実現」を前倒しで通知し、子どもたちがデジタル機器を正しく利用し、同時にリテラシー（活用能力）を身につけることが彼らの将来に重要と位置づけたのです。なお、次年度より学校では1人1台の端末環境が整い、その利活用が開始されることを申し添えます。

「体験学習」の9月～座学では学べない活動をとおして～



【5年：自然学校】

9月8, 9日。5年生は南但馬で自然学校を実施しました。今年コロナ禍のため4泊5日から1泊2日と大幅短縮でしたが、事前に「火おこし」・「HAP（ひょうご冒険教育）」などの体験を実施するなどして、できる限り多くの自然体験ができるよう工夫して取り組みました。

さて、私は子どもたちに3つのキーワードを贈りました。「全員」

（子どもたちは力を合わせ、いろいろな活動にチャレンジし、目標を達成できたこと）、
「絆」（結果、個々の成長とともに、集団としての絆を深めたこと）、
「感謝」（自然学校には様々な人～リーダーさん、救急員さん、施設の方、先生～の支えがあったこと）です。

閉校式の時、担任の吉川先生から「この自然学校の経験をこれからの（学校や家庭での）生活に活かしてください。」との言葉がありました。5年生の今後に期待します。

【4年：点字・車いす体験】

4年生は福祉学習に取り組みました。人を思いやる心や助け合う社会の尊さなどを肌で学びました。



【3年：マイそろばんづくり、ちくわづくり体験】

3年生はいろいろなものを作りました。「そろばんづくり」で、小野市の伝統産業を学び、「ちくわづくり」で、食育を学びました。



10月の主な行事予定



2日（金） 歯科検診 1, 2, 5年	22日（木） かわい小中合同体育祭
4日（日） 小野市小学生陸上競技大会	23日（金） 同 予備日
12日（月）～13日（火） ふれあいの日	27日（火） オリパラムーブメント講演会
20日（火） ハートフル弁当	30日（金） サイバー教室

☆10月は20日（火）、22日（木）、23日（金）の3日が**お弁当**の日となります。